

日本の海岸線を歩く会 計画書

2021年 6月 18日

計画者 : 友松知宏

1. 計画の概要

ブロック名	九州(八代～薩摩川内)
歩行区間	スタート地点 : 熊本県/九州新幹線/新八代駅 ゴール地点 : 鹿児島県/オレンジ鉄道/上川内駅
実施期間	令和 3年 06月 02日(水)～ 06月 08日(火)
概算歩行距離	115.5Km
1人当費用概算	112,000円

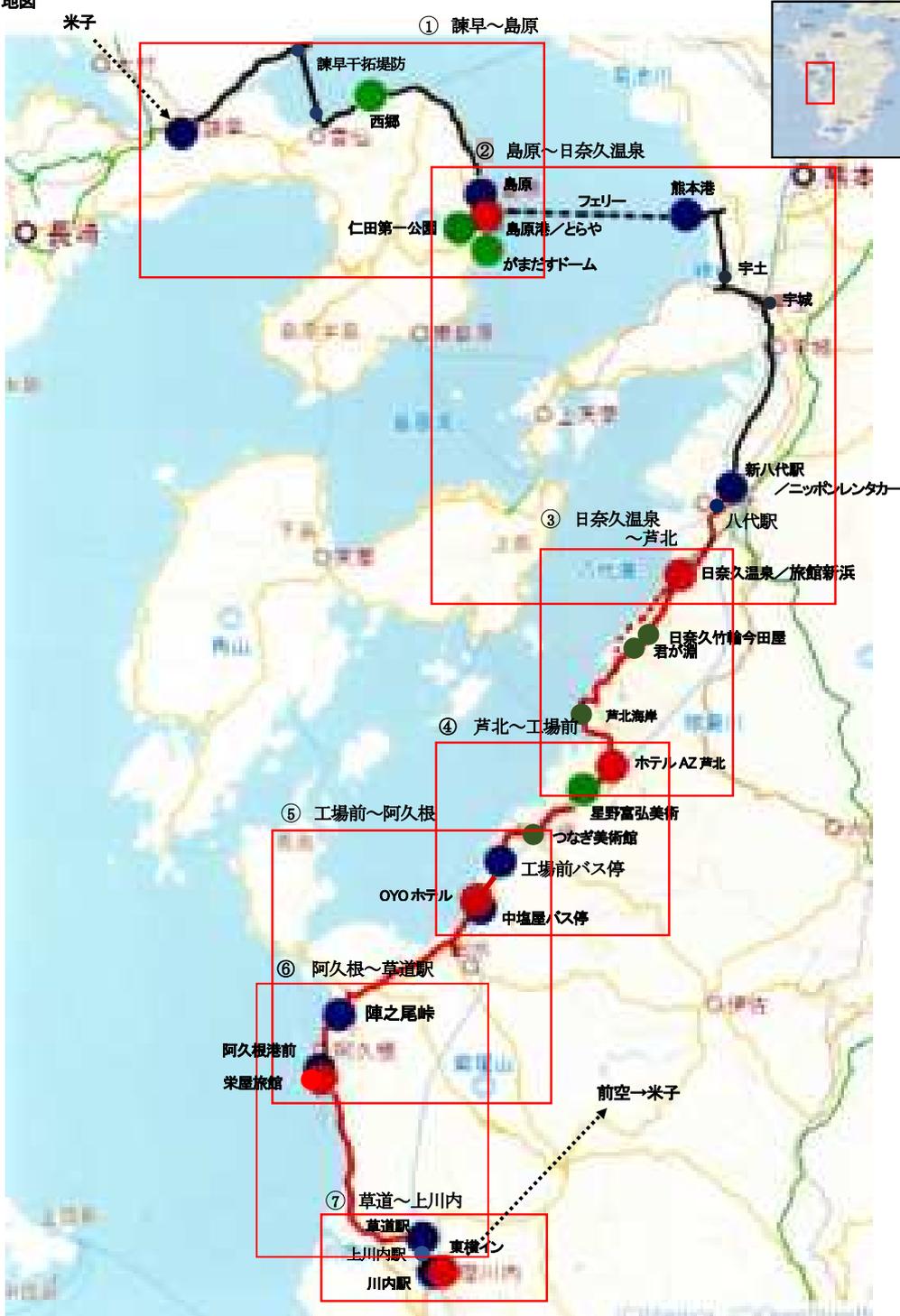
2. メンバー表

役割・分担	氏名	ワゲル期	備考(ワゲルとの関係等)
1 リーダー・記録	友松知宏(81才)	8期	090-7774-8559 鳥取県
2			

3. 歩行概要

月日	出発地～	到着地	距離	歩行者	備考(宿泊)
1 6月 02日	JR米子 05:32=岡山=博多=11:36 諫早=(レンタカー)= =雲仙西郷(前田さん訪問)=19:30 島原(がまだすドーム)			友松	ニッポンレンタカー ホテルとらや
2 03日	とらや 08:00=(車)=09:00 仁田第一公園(普賢岳慰霊)= 島原港 9:40=(フェリー)=10:40 熊本港=新八代駅 13:28～ 八代駅～16:50 肥後高田～18:35 日奈久温泉～19:00 新浜旅館		15.6		レンタカー返却 新浜旅館
3 04日	日奈久温泉 8:10～9:50 薩摩街道十四里木跡～10:00 新浜女将 10:19 二見駅～12:05 日奈久竹輪～14:20 田の浦～16:40 海浦 17:40 芦北海浜公園～芦北町役場前～19:50 ホテルAZ		21.4		ホテルAZ
4 05日	ホテルAZ 8:00～9:30 星野博富美術館～12:59 千代塚～14:00 ミニポスト～14:40 津奈木～水俣～工場前=21:00 中塩屋		24.2		OYOホテル
5 06日	中塩屋 08:00=(南国交通)=工場前 08:16～10:25 OYOホテル 11:00～15:10 いずみ大橋～17:42 折口駅前～陣之尾峠 18:28= (南国交通)=18:40 阿久根港入口		24.2		栄屋旅館
6 07日	阿久根港 07:53=(南国交通)=陣之尾峠 08:10～9:50 栄屋旅館 10:18～14:53 望海 15:53～西方/人形岩 17:58～薩摩高城 19:10 ～20:12 網津～草道 21:16=(オレンジ鉄道)=21:30 川内駅		24.6		東横イン
7 09日	川内駅 7:59=(オレ鉄)=8:09 草道駅～10:36 ダイハツ 10:50 ～上川内駅 11:00=川内駅 11:05～東横イン～川内駅 11:46= 15:00 前空=岡山(新神戸)=22:19 米子=帰宅		5.5		115.5Km

4、地図



5. 詳細報告

5-1 普賢岳火砕流災害30周年の慰霊

NHKのカメラマンで26期 OBの矢内万喜男君が亡くなった普賢岳火砕流災害から、この6月3日で30周年を迎え、私は10時からの島原市主催の追悼記念式典に参列するため、前日2日の早朝に家を出て、諫早駅前前でレンタカーを借り、諫早干拓堤防を渡り、251号島原街道経由で島原市に入った。途中、雲仙市西郷町の前田郷子さん宅を訪問。昨年、この道を歩いた時に知り合い、これが3度目の訪問。玄関先で失礼するつもりが家に引き上げられた。

万喜男君の令嬢美春さん関連の新聞記事を並べて、教育委員会で一緒に医師が、美春さんを家に泊めたことを興奮気味に話され、これらの記事を読んで、自分も涙が出たと目頭を押さえる。

前田さん宅を辞し、島原市のがまですドームへ行き、美春さんの写真展を拝観。30年前の親子3人の写真もあり、観る人の涙を誘う。ドームの広場でキャンドルナイトがあり、7時の点灯を見てドームを離れた。



がまですドーム／キャンドルナイト

宿に入る前に、翌日の会場を確認しようと、追悼式会場の仁田団地に入った。仁田団地は火災流で家をなくした人達のための団地で、普賢岳ドームからほぼ真東に6キロ、標高 8～90mの高台にある。裏山に遮られて、団地から山を直接見ることはできない。次に備えて普賢岳が見えない高台に移ったのか？

そんなことを考えながら運転して、うっかり公園への角を直進し、裏山に迷い込んでしまった。

車が1台ようやく通れる細い山道で、どこかでUターンしようと頂上近くまで登り続け、暗くなり始めた細道をパックのカメラを頼りに団地まで下った。裏山に人が上がっている気配はなく、住人の普賢岳への恨みが見えたような気がした。

翌日は朝から雨。宿で傘を借りて8時に出発。昨日見ておいた空き地に車を入れようとしたが、いまだ少し近くにと、スタッフに声をかけると、会場まで行ってよいとのこと、公園入口脇に車を止めることができた。



仁田団地公園の祭壇



普賢岳に「たたえよ命」を吹いた

まだ9時前。参拝者の姿はなく、ゆっくりと祭壇に額づき合掌。

TVと新聞社の取材を受ける。新聞に望むことは？と訊かれ、「小規模な火山活動との報道が、長袖を着ればやけどしないという誤解を生じ、大勢の犠牲者をだした。真実を伝えて欲しい」と答えた。

後日送られてきた新聞に、その記者ではないが、私のコメントに応えてくれたような論調があり、長年のわだかまりが融けたような思いがした。(添付資料)

雨が激しくなり10時を待たず、会場を退出。予定より早いフェリーに乗船。

最後尾の甲板に座り、普賢岳に向かって、持参のリコーダで「何時かある日」と「たたえよ命」を吹いた。

普賢岳が雨に消えて行き、自分の役目も終わったような気がした。

5-1 目的地を目指して

② 新八代駅～日久温泉／6月3日(雨)

09:40 島原港＝フェリー＝10:40 熊本新港＝宇土＝有佐／華月園(焼きビーフン)＝13:38 新八代駅／ニッポンレンタカーに到着。車を返し、レインコートを着ようともたついていたら、「これを持って行ってください」と透明ビニールの傘を下された。

今回歩行は天候だけでなく、出発の伯耆大山駅で列車を間違え、帰りの新幹線で寝過ごし、神戸に行ってしまう等々、最初から最後まで狂いっぱなしであったが、行く先々で親切な人に助けられた。

困ったのは Yahoo の地図で、情報量が少ないことと、時には現場と地図が違っていることであり、無駄な、時間と体力を消耗した。

14:30 に八代駅入口の交差点に着くが、地図と様子が違う。

駅へ行き、そこで地図を見るが、全く違う。駅前から球磨川にかかる萩原橋に行く 150m の直線があるはずが、その道が見当たらない。駅前の案内地図を見ると、目の前にある 2 本の内、右方向への道を行き、堤防に沿って 1 キロ下流に橋があり、遠回りになるが渡ってから考えようと歩きだし、先刻歩いてきた道を超えて、堤防が目の前に来たところで、荷物の積み下ろしをしているトラックがいたので、訊ねてみた。

6 キロ先の肥後高田の地名を言うと、これでは行けないと言い、「いまた交差点を右に行け」という。

交差点に戻り、右折。100m も行かぬうちに、道路標識がでてきて、この道は 3 号線で、熊本に向かっていることが分かった。逆方向である。

米か何かを扱うらしい店があるので、入って同年配と思しき女性に訊ねなおした。

店から 30m ほど先の路地を指さし、その先に橋があるという。念のために橋の袂にある、とんかつ屋の店の名前を言うと、それもあると言う。言われたとおり路地道を行くと、とんかつ屋の大きな看板が現れた。

橋を渡り終えたところで、球磨川上流へ向かう 219 号が全面通行止の表示。九州は水害の多い所である。橋の下に根こそぎの流木が引っかかっているのが見えた。



八代駅



219号線全面通行止め



川岸に流木が引っかかっている

雨のため腰を下ろす場所がなく、ひたすら歩く。16:50 肥後高田駅前、17:12 八代南 IC 入口、18:35 日奈久温泉駅前。

宿の新浜から電話。19:10、宿の前で女将さんが待っていてくれた。

2キロの二見駅まで歩き、バスで戻ってくる予定であったが、遅くなるので、ここで終わりにする。

食事をどうするか訊かれて、そう言えば食事はなかったなと思いだし、途中のマーケットに買いに行こうとすると、女将が「ちょっと待ってね」と、道の向こうの居酒屋らしい店に行き、戻りながら OK の合図。

風呂に入ってから行くと言うと、「早く閉まるから、上がらずに行ってきたさい」と、押し出されてしまった。



日奈久温泉街



孝子師匠

カウンターとテーブルに 4~5 人の先客。カウンターで一人呑んでいた女性が立ってきて、背中の荷物を下ろしてくれた。隣に座って、食事を頼み、芋焼酎のお湯割りを呑み始めた。疲れた体に焼酎が沁み込んで、口が勝手に滑りだし、あつと言う間に馴染の飲み仲間になってしまった。名前を訊くと、孝子と答えてくれた。踊りの師匠。温泉街で教えるとなったら、お嬢様のお稽古ではない。プロを鍛える筋金入りである。身に着けた衣装もさることながら、椅子に寄りかからず、背筋をピンと立てて呑んでいる。

8 時を回るとテーブルの客が出て行き、黒木華に似たママさんも誘って 3 人で呑んだ。

③ 日久温泉～芦北／6月4日(雨)

9:18 に旅館新浜を出発。昨夜の疲れで寝坊し、出発が遅れた。明治元年に建てられたという宿をゆっくり見たかったが、昨日の遅れを取り戻さな



新浜の女将が忘れ物を届けてくれた

ればならず、急ぐ。

2キロ地点に薩摩街道十四里木跡の標識。

清水が湧いているので一口でも思っているところへ 新浜の女将が車で追いついてきて、忘れ物(シェーピングクリーム)を届けてくれた。

後日、その時の写真(前頁)に、山頭火の句、「うしろ姿のしぐれてゆくか」を添えて送ってくれた。

お返しに、同じ山頭火の「わがままな旅の雨にぬれてゆく」を携帯で送信。たった一晚の滞在であったが、日奈久が忘れられないところになった。

10:19 二見駅前。ここからオレンジ鉄道に沿って海岸に行く予定であったが、道の状況が分からないところが2ヶ所あり、雨では危険なので、内陸の3号線に行くことにする。

赤松町の中心を流れる無名の川に沿って緩やかな登り。赤松トンネル手前で標高130m。途中、君が淵という溪流があり、足を止める。



君が淵 日奈久竹輪今田屋／赤松本町

12:05 名物の日奈久竹輪を製造、直販する、今田屋に入り、竹輪を1本求めて、昼食代わりに店先で食べた。普通の竹輪の孔に、魚の卵巣を混ぜたらしい「ペースト」が詰められて、風味豊かな味わいである。

14:20 たのうら御立岬公園駅前で、上田浦～金山神社経由の道に合流。

16:50 海浦の交差点を右折。通称芦北海岸に向かう。火山が海に張り出してできた半島らしく、地形の変化に富んだ美しい半島である。野坂の浦の由来が看板に書かれている。



野坂の浦



鶴が浜海岸



海浦海岸

野坂の浦

奈良時代に、筑紫に遣わされ水島に渡った長田王(天平9年・737年没)が、「芦北の野坂の浦ゆ船出して水島に行かむ波立つなゆめ」と詠んだ歌が万葉集に載ったため有名になり平安時代の歌人たちが歌の題材にした。

半島の先端に海浜総合公園。

悪天候で休園していたが、外から覗けたローラー・リ्यूージュ(小型そり)に乗って見たいと思った。200mほどの本格的なリフトを備えており、雪のない九州の工夫だと思った。



芦北海浜総合公園

佐敷川の橋を渡り、芦北町役場前交差点で3号線にもどり、19:50 ホテルAZに到着。

④ 芦北ホテルAZ～工場前バス停／6月5日(時々雨)



湯浦公園／石地藏



公園内の散歩道



グラウンドゴルフ場

8:30 ホテル AZ 出発。湯浦駅前から国道と河川の間に広がる湯浦公園の散歩道に入る。
 樹木や石地蔵など古いものを残しながら、美しい空間を形成している。奥はグラウンドゴルフ場。アウト・イン
 18ホール、天然芝を張った本格的なコースである。
 9:30 星野博富美術館入館。昨日観る予定だったところで、今回はざっと館内を一巡するにとどめる。
 目にとまった詩絵のハガキを買った。富弘さんの無念を知ったような気がする。

神様がたった一度だけ
 この腕を動かして下さるとしたら
 母の肩をたたかせてもらおう

 風にゆれるぺんぺん草の
 実を見ていたら
 そんな日が本当に
 来るような気がした



星野富弘美術館

館員に断り、リコーダで「たたえよ命」を吹かせてもらった。

12:59 千代塚入口。

休みの頃合いだったので、立ち止まる。そこへ車を止めて、グラウンドゴルフのバッグを下げた男性が降りてきたので、塚の由来を尋ねた。どこから来たのかとの質問がきっかけで、話になり、息子さんが鳥取県境港美保基地の航空自衛隊の准将でいまは松江に住んでいるという。びっくりした。

千代女の塚まで案内してもらおう。そこも広場になっていて、やはりゴルフのお仲間がプレイしている。教育委員会の看板を読むと、江戸時代、母を亡くした9歳の千代が祖父母を助けて一家を支えた孝を表彰された。没後、千代の徳を慕う人がこの場所に碑をたて、部落を千代と呼ぶようになった。



千代塚入口で高見さん



顕彰の碑群



千代部落の中を歩く

高見さんが入口まで送ってくれて、千代部落の中を通る、旧薩摩街道の道を教えてくれた。
 小川に沿って歩く。途中同年輩のご婦人が話しかけてきて。立ち話。



13:50 3号線に戻って、面白いものに出会う。

① 亀萬 / 日本最南端の日本酒醸造所 / 直売所 (左上)

ここは熊本県の南端であり、ここが日本酒の最南端と言うことは、鹿児島県には日本酒はないということになる。

西郷隆盛が最後まで時の政府に反抗し、鉄道施設にも反対し続けた薩摩人のこだわりが、こんなところにも表れているのかも知れない。

② ミニポスト (左下)

ポストにもいろいろあることは知っていたが、こんなところで可愛いミニポストに出会えるとは思いませんでした

実は、出発直前に、倉吉市で、俳優の片岡鶴太郎氏が画業25年記念の作品展を開き、併せて、一般の絵画コンテストがあり、



私の作品が大賞を獲得した。その作品名が「ポストのある風景」であった。絵のモデルは米子市内のOさんの、ポストをテーマにした写真集で、全国を行脚して出版された中の一枚を(もちろん本人の領解を得たうえで)描かせてもらったものである。

その写真集にも、このようなミニポストは収録されていない。大発見である。

14:40 つなぎ美術館。

地元作家の蔵野由紀子と佐野直氏の二人展。

蔵野氏の強烈な個性に圧倒される。

50~70号のキャンバスに、女性の顔の一部分が拡大描写され、それが写真かと思うほどにリアルで、見るものを驚かす。

美術館の3階がケーブルカーの発着場になっていて、天気良ければ裏山の展望台に上がることができる。



つなぎ美術館



美術館の裏山

18:40 水俣駅通過。

20:15 工場前(新栄合板)バス停脇のセブンイレブン。

ここからバスに乗る予定であったが、最終が出てしまい、タクシーを頼もうと店長に相談する。

ここは熊本県。タクシーは水俣から呼び、越境して鹿児島県に行ってもらわねばならず、気の毒なので、ホテルに電話でタクシーの手配を頼んだところ迎えに行くと言ってくれる。

15分後に来てもらい、21:00 OYOホテルにチェックイン。



JR 水俣駅

⑤ 工場前バス停～陣之尾峠バス停／6月6日(曇り時々雨)

08:00 OYOホテルに荷物を預けて出発。中塩屋バス停 08:04(南国バス)＝08:14 工場前バス停～10:09 たこ焼き大阪～10:25 OYOホテルで荷物回収～11:26 米の津駅前～11:43 米の津交差点右折～11:57 出水大橋を渡った先のファミリーマートでサンドウィッチで昼食。

このあたりから、連日の睡眠不足による疲労がでてきて、歩行速度が落ち、休憩毎に横になり仮眠をとるようになる。仮眠はバス停のベンチや道路脇の顕彰碑の台座であったり、それもない時は脇道の目につかない道端にごろ寝する。

15:10 いずみ大橋を渡った先で、門司からの距離「300キロ」の標識。

3年前に下関から海底歩行トンネルを潜って門司に入った時のことが思い出される。道路標識の鹿児島までの距離表示が、70キロを切っており、九州1周の折り返しが次回にはできると確信。

疲労が激しく、休憩が30分置きになり、予定が遅れて、大林バス停の最終に間に合いそうにない。

手前のバス停で乗ることにして、バス停の時刻表見ながら歩く。

大林の二つ手前の陣之尾峠バス停で乗る。

ここまでの今日の歩行距離は23,4キロ。10時間10分。時間当たりの平均速度は2,3キロ。正常時の半分である。



たこ焼き大阪



門司から300キロの表示

今夜の宿、栄屋旅館から電話が入る。

18:50 阿久根港入口で下車。19:00 チェックイン。荷物を置いて、近くのスーパーで食べ物の調達をする。

スーパーはバックが家族仕様で、一人では食べきれない。しめ鯖(と思って買った)を半分食べてくださいと、女将にバックごと渡したところ、生の切り身であることが分かり、焼いてもらうことになった。

食事前に風呂に入る。ここは、別館が一般に解放された温泉浴場で、かなり濃い塩泉である。米子も塩泉はある

がこれほどではない。疲労が融け出てゆくようだ。

食後に洗濯するつもりであったが、女将が洗ってくれた。疲れている時、たいへん有難かった。九州の人は、男も女もたいへん親切である。

⑥ 陣之尾岬バス停～草道駅／6月7日(晴れ)

07:45 浴場に荷物を預け、阿久根港入口発 07:53＝南国バス＝08:10 陣の尾岬に戻り、歩行開始。

09:50 再び栄屋旅館の温泉浴場にもどり、荷物を回収。温泉は10時に休憩に入り客はない。掃除をしている女性スタッフに断りをいれて、ソファで休ませてもらう。30分ほど寝て、10:18 浴場を出発。

日差しが強く、暑い。アンダーシャツ一枚で歩くが、肌が焼かれて痛い。

14:30 レストラン望海の建物の陰で1時間寝る。16:24 3号線はオレンジ鉄道を横切って山に入っていくが、地図に線路沿いの道があり、3号線に別れて直進する。

17:00 3号線にもどる。遅くなっているが、ここでも昼寝ならぬ夕寝。アツダウンと日射でかなり疲労。

17:47 西方海水浴場に奇岩「人形岩」が現われ、更に行くと言の並木。19:20 日没。



薩摩高城駅を通過後、日没



椰子の並木



西方海岸／人形岩

あつと言う間に夜となる。山道は街灯も人家もなく、頭上は木に覆われているので、完全に光がなくなる。歩道はあるが、車道より20cm高くなっていて、車道に向けて傾斜があったりで、幅が狭まったところでは、携帯で足元を照らすのが、役に立たない。マニュアル病を持つ私には地獄の道行である。足を踏み外したら、死もあり得る。

トンネルは車の轟音で、平衡感覚が壊されて危ないのだが、真つ暗闇よりは助かる。

20:12 網津町の交差点で街灯にたどり着き、ようやく場所の確認が出来た。網津町交差点、今日の目標草道まで残り1.7キロ。



トンネルの灯が見えた

再び暗闇。

地図では大きなS字カーブの先に目的地の草道駅がある。しかしS字カーブが幾つもあり、途中にある筈のファミリーマートも現れない。

20:50 街灯のある交差点に川内港方面の標識がある。地図にそのような場所が見当たらない。後で判ったのだが、道は黄色で描かれており、街灯の黄色の光では見えない。

通り過ぎたのではと思い、立ち止まっていると、携帯に呼び出し音。宿泊予定の東横イン川内からである。

さっそく難渋の状態を言うと、「前にガソリンスタンドがありますか？」と訊いてくる。暗くて気づかなかったが、たしかにそのようなものがある。どうも廃業したらしく、灯もなく、荒れている。

「その先に信号がありますから、そこを左に入ってください」とご宣託。500m歩き、21:00 ようやく草道駅に辿りついた。21:16 のオレンジに乗り、21:16 川内駅到着。21:30 東横インにチェックイン。



草道駅

⑦ 草道駅～上川内駅／6月8日(晴れ)

07:40 宿に荷物を預け、出発。オレンジ鉄道で昨夜の草道駅に戻る。08:00 草道駅出発。昨日に続いて真夏日。30分毎に休憩。相変わらず休憩毎に仮眠になり、1時間に2キロのペース。

10:36 上川内駅手前のダイハツの販売店のショールームのガラスの外側に横になれるスペースを見つけ、店の了解をとった。外にでたら、入口の脇にベンチがあり、こちらの方が迷惑にならないと思い、改めてお願い直し、荷を下ろして横になった。

女性スタッフがトレイに冷たいお茶と菓子を載せて運んできて、「召し上がってください」と言う。ご丁寧に、お茶のグラスは2つあり、乾いた喉に心地よく、そのまま20分寝てしまった。

残りは4キロで歩けない距離ではないが、帰る途中、広島廿日市の友人を訪ねる約束があり、上川内駅で、今回の歩行を終わることにした。

発着時刻はわからないが、とりえず急ぐ。駅到着と同時に、下りの電車が入線。幸運なことに手前のホームに止まった。「おーい」と駆け足してホームに入ると、ワンマンカーの運転手さんがホームに立って待っていている。行き先を確認し、乗車。

11:00 発=11:05 川内着。

東横インで荷物を受け取り、予定した11:46のさくらに乗車した。



川内駅

6、費用

交通費	47,290_
レンタカー、ガソリン/ニッポン・レンタカー	19,842_
宿泊費 合計	35,125_
昼食等	5,356_
雑費(洗濯、みやげ、入館料等)	4,420_
総合計	112,233_

7. 別添参考資料

1) がまだすドーム企画展案内

友松 知宏 2021-06-27 14:20

画

コメント[友松 1]:

5.15 [土]
6.27 [日]

1階イベントスペース 入場無料

今年には雲仙普賢岳噴火災害から30年。地元・島原に暮らす私達にとって決して忘れるわけにはいかない出来事ですが、噴火災害の記憶が徐々に風化しつつあり、噴火災害を知らない世代が増えています。噴火災害の伝承を目的として、当時を記録する手記や記録、書籍などを展示します。

2021
災害から30年 企画展

あの時を、振り返る

展示内容

- 再生する未来に向かって
矢内実春（火砕流で犠牲になった、故矢内カメラマンのご遺族
- 再記憶と記録を伝えたい
ー 長期の噴火災害をどう
闘い抜いたか
松下英彌
- 絵で振り返る30年
溝行豊人

2) 西日本新聞「矢内美春さん関連記事」

西日本新聞 1991年3月28日 第3版

普賢の麓で 大火砕流30年

赤くさび付き、ねじ曲がった鉄の塊を雨が打つ。辛うじて原形をとどめるホイール部分が、車だつたことを伝える。

1991年6月3日、長崎県雲仙・普賢岳を駆け下った火砕流が辺りを焼き尽くし、多くの人や車を巻き込んだ。それから30年。この春、岩や土砂の中から報道車両とチャーターされたタクシーが姿を現した。

犠牲者遺族の矢内美春さん(51)は5月15日、この地に立ち、手を合わせた。孤立感が和らいだ気がした。

普賢岳を正面に見据える

この場所は「定点」と呼ばれる。多くの報道カメラマンが陣取り、火砕流にレンズを向けた。矢内さんの父、テレビカメラマンの万喜男さん(当時61)もその一人。あの日、報道関係者や消防団員、警察官、タクシー運転手らとともに火砕流にのみ込まれた。当時1歳。

父の記憶はない。10代になって母に連れられて島原、定点を訪れるようになった。同じように大切な家族を失った遺族同士でも、報道関係は立場が異なることを知る。罪悪感を抱いた。

25面に続く



30年ぶりに掘り起された報道関係の車両を見つめる
矢内美春さん(51) 5月15日、長崎県島原市の「定点」

以上